



## 展覧会概要

戦国の世が終わり、泰平の世が到来した江戸時代初期、現実社会を厭世的な「憂世」から肯定的な「浮世」と捉える時代の風潮を反映し、活況に満ちた都市を舞台に人々がつどい、遊び楽しむ様子を生き生きと描き出した風俗画が数多く登場しました。

風俗画は、やがて背景を省略して人の姿そのものを対象とするようになり、美しい姿かたちや小袖模様に意匠を凝らした遊楽人物図が生み出されました。一方で、四季の移ろいのなかで人々が生活を営む様子を主題とした屏風や図巻は脈々と描き続けられ、名だたる画家たちが清新な風俗画の世界を展開しました。

江戸時代の風俗画は、現実の生活を生き、平和を謳歌する人々に視線を注いだ絵画であり、普遍的な魅力にあふれています。風俗画の名品の数々を、小袖や調度品とともに展示し、その魅惑の世界に誘います。

## 展覧会基本情報

- ◆展覧会名 秋季特別展 人間讃歌—江戸の風俗画—
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室・徳川美術館 本館展示室
- ◆会期 2023年9月24日(日)～11月5日(日)  
※会期中展示替あり(前期:9月24日(日)～10月15日(日) / 後期:10月17日(火)～11月5日(日))
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日 ※但し10月9日(月・祝)は開館、翌10月10日(火)は休館
- ◆観覧料 一般1,600円 高・大生800円 小・中生500円  
※20名様以上の団体は一般1,400円 高大生700円 小中生400円  
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆主催 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・中日新聞社・日本経済新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局

## プレス内覧会

2023年9月23日(土) 午後1時30分～2時50分 (午後1時15分受付開始)

会場: 徳川美術館 講堂

内容: 展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

## 第1章 都市に生きる

戦国の世が終わり、泰平の世が到来した江戸時代初期、現世を厭世的な「憂世」から肯定的な「浮世」と捉える時代の風潮を反映して、活気に満ちた都市に人々がつどい、遊び楽しむ様子を生き生きと描き出した風俗画が数多く登場しました。

当時、日本各地で莫大な金銀が産出され、海外交易がもたらした巨万の富は、未曾有の活況を生み、人々の生活を豊かにしました。

慶長8年(1603)、徳川家康が京都に二条城を築くと、都市風俗図である洛中洛外図も変貌を遂げていきます。また同年に評判となった出雲のお国の歌舞伎踊りをはじめ、歓楽街として賑わいをみせた四条河原、華麗な風流を伴う祭礼など、時世粧を敏感に採り入れ、さまざまな画題の風俗画が生み出されました。

「浮世又兵衛」の異名で後世に称賛された岩佐又兵衛の躍動感あふれる人物表現をはじめ、この時期の風俗画は人々の明るく楽しげな声や息づかいまでが聞こえてきそうな臨場感と熱気に満ちています。



【画像1】国宝 洛中洛外図屏風(舟木本 左隻)

【画像2】国宝 洛中洛外図屏風(舟木本 右隻)  
岩佐又兵衛筆 六曲一双 江戸時代 17世紀  
東京国立博物館蔵 Image: TNM Image Archives  
後期: 10月17日(火)~11月5日(日)公開



【画像3】重要文化財 豊国祭礼図屏風(左隻)



【画像4】重要文化財 豊国祭礼図屏風(右隻)  
岩佐又兵衛筆 六曲一双 江戸時代 17世紀  
徳川美術館蔵

## 第2章 遊びをつくす

天下泰平の世は、人々を浮世の享楽へと導き、絵画の上でも広大な邸宅を舞台に人々がさまざまな遊びを繰り広げる様子を描いた邸内遊楽図が生み出されました。花のミヤコ・京都か新興都市・江戸か、はたまた遊里の妓楼か貴顕の邸宅か、どことも判別がつけがたい場所で、人々が美しい衣裳を身にまとい、酒食を楽しみ、舞い踊り、さまざまな遊びにふける情景には、享楽的な雰囲気濃厚に漂います。一方で、茶・花・香の高雅な遊びや、中国の君子がたしなむ四芸である琴棋書画に見立てられた雅遊、さらには蹴鞠や楊弓などの公武の諸芸なども見いだされ、雅俗の遊びがない交ぜとなっています。

刹那の快樂に身を投じる人々の様子は、日常生活とはかけ離れ、どこか非現実的です。そこは日々の憂さから解放放たれることのできる、人々の夢や憧れが結集した悦楽の理想郷なのかもしれません。



【画像5】重要文化財 遊楽図屏風(相応寺屏風)  
八曲一双のうち左隻 江戸時代 17世紀  
徳川美術館蔵

## 第3章 美をきわめる

幕藩体制が確立していくと、放埒なふるまいや身分を超えた装いが禁じられ、享乐的な遊びは芝居や遊里といった悪所に限定されていきます。こうした動向と軌を一にするかのごとく、風俗画は描く対象をクローズアップするように視野を狭め、背景を省略して人々の姿態美や衣裳美に重点を置いた遊楽人物図や美人図が生み出されました。

人物画は、本来、その容貌や肉体の美が追求されますが、この時期の遊楽人物図や美人図では、化粧や黒髪を束ねて作る結髪、身にまとう衣裳模様の美しさ、優美な手足の仕草や立ち居振る舞いを描き出すことに意が注がれました。とくに衣裳の表現は、17世紀以降、めざましい発展を遂げた染織技術を反映しています。技巧を極めて美を尽くし、かつ時代の先端をいく意匠の小袖を描くことで、時にこれをまとう人物の気概や美意識をもあらわす役割を果たしました。



【画像6】 国宝 風俗図（彦根屏風）  
六曲一隻 江戸時代 17世紀  
彦根城博物館蔵  
画像提供：彦根城博物館 / DNPartcom  
10月24日（火）～11月5日（日）公開



【左：画像7】 重要文化財 菊に棕櫚模様帷子  
江戸時代 17世紀  
京都国立博物館蔵  
前期：9月24日（日）～10月15日（日）公開

【右：画像8】 重要文化財 竹栗鼠梅模様振袖  
江戸時代 17世紀  
文化庁蔵  
後期：10月17日（火）～11月5日（日）公開

## 第4章 泰平をたのしむ

17世紀半ばを過ぎると、現世を意味する「浮世」という言葉も変化します。当世風、つまり流行の風俗との意味が加わり、さらには芝居・遊里などの悪所を示す言葉となって、絵画の上では役者絵と美人画を二大ジャンルとする「浮世絵」が誕生しました。浮世絵が版本や一枚絵の版画に独自の発展を遂げる一方、四季の移ろいのなかで人々が生活を営む様子を主題とした屏風や図巻は脈々と描き続けられ、名だたる画家たちが清新な風俗画の世界を展開しました。

大衆向けの版本や版画と異なり、屏風や図巻は特権階級の注文によって描かれることが多く、注文者の理想や憧れ、時に政治的な意図などが反映されました。四季折々の美しい情景のなかに展開された、万民が日々の暮らしをつつがなく営む安寧な世。描かれた人々の穏やかな暮らしぶりには、泰平の世を寿ぎ、これが永く続くことを願う人々の思いが込められているかのようです。



【右：画像9】 国宝 納涼図屏風  
久隅守景筆 二曲一隻 江戸時代 17世紀  
東京国立博物館蔵 Image: TNM Image Archives  
前期：9月24日（日）～10月15日（日）公開

## 展覧会関連イベント

### ■記念講演会 対談「人間模様の好奇心」

講 師：出光佐千子氏（青山学院大学文学部比較芸術学科 准教授）  
松本郁代氏（横浜市立大学大学院都市社会文化研究科 研究科長 国際教養学部 教授）  
日 時：2023年9月24日（日）午後1時30分～3時（午後1時開場）  
会 場：徳川美術館講堂  
定 員：80名（事前申込制／先着順）  
参加費：無料（入館料別途要）  
受 付：徳川美術館公式ホームページにて8月22日（火）より開始

### ■土曜講座「風俗画を読み解く」

講 師：学芸部 部長代理 吉川美穂  
日 時：2023年10月7日（土）午後1時30分～3時（午後1時開場）  
会 場：徳川美術館講堂  
定 員：80名（事前申込制ですすでに満席／当日空席がある場合のみ受講可）  
参加費：800円（入館料別途要）

## 広報画像ならびに視聴者・読者プレゼント提供

秋季特別展「人間讃歌—江戸の風俗画—」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。  
画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。



<下記内容をメールまたは電話、ファックスにてお知らせください 利用期間：～2023年11月5日（日）まで>

希望画像番号

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

#### [ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL：052-935-6262（10時～17時受付）

052-935-8222（営業時間外受付）

FAX：052-935-6261

担当：吉川・竹内

public-info@tokugawa.or.jp